

今、新しい時代へ、三十二期生



卒業生記念号

発行

洛星新聞局

(463) 3281 (代)

印刷/有片桐軽印刷

去る2月8日第32回高等学校卒業式が行われ二百五十六名の卒業生がさかな笑顔で巣立っていった。

輝かせ世の光を

校長 ゲエタン・ラバディ



32期生の皆さん、おめでとうございます。洛星で学んだ基本方針はキリストの教えであつたことを忘れな

ないで下さい。人間は神によって創られたものであり、頭だけでなく、心と体もあつて下さい。人間は皆、兄弟です。おたがいに思いやり、気持を持ち、愛し合つてゆかなければなりません。この教えは君達が学んだ宝物だと思ひます。この教えを信じ、思ひ出すことは自分の人生だけでなく、どんな仕事、どんな境遇、どんな人間関係においてもすばらしいあなたの人生の方針としてあなたの人生を大きく意義深いものにするでしょう。医師、教師、弁護士、サラリーマンなどそれぞれの立場にたてば、その立場をどのようにするべきかを理解出来ることと思ひます。すなわち自分でやつてゐることは、私達の兄弟のためにプラスになるかどうか、いつも自分自身に問ひかけなければなりません。医師として、治すのは病気だけでなく、病人です。言い換えれば、肉体的な面だけでなく、同時に精神的な心の病も治さなければ



H.III A担任 田村岩男

32期生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は高1から担任をさせてもらった訳ですが、この2年間、本当に楽しく有意義なものであつたことを、まず、皆さんに感謝したいと思います。

これから皆さんは大学へ入学し、そして社会人へとなつていきます。高校時代までの生活は多少の差はあつても基本的には同じような日々を送つてきた諸君ですが、これからは一人一人が違った方角へ進み、他人とは全く異なる道が待っています。今よりもはるかに自分からの意志、行動が必要になり、またその責任も大きくなつていきます。様々な意味で前向き人間であつてくれたら、と願つた次第です。

とにかく、やりたいことを一杯やして下さい。遊びでも学問でも、これは、かついていく問題です。山ほどあるでしょうが、愛があればひとつひとつ解決出来るにちがひありません。又、洛星で学んだ教えを理解しなければ効きめを失つた塩のようになり、社会にあって無価値な存在となるだけなく、君達のせいであつて、地球や社会が早く破壊される恐れがあります。顔をあげて前を見て下さい。社会が君達を待っています。君達は一人一人がユニークであり、社会の中では他の人と交代出来ない大切な役割があるのです。社会における役割をうまく全うするための一つとして大学の段階があります。これからの大学への合格、そして社会での成功のために私は折つておきます。

担任より卒業生諸君へ

私にとつて一生忘れられないこと、おめでとうござい。卒業生、32期生のみなへ……

止つて、右、左、
H.III E担任 小川 仁美



H.III D担任 田中 勉

H.III C担任 寺井治夫



32期生の皆さん卒業おめでとうございます。洛星での時間、それぞれあつた思い出を抱いて卒業式の日を迎えてくれたこと、と思います。2月8日の君たち一人一人の表情は、ほんのりとした笑顔で、それは、本当に嬉しかった。長い間、名前を呼ばれた、肉体的に常に変化しています。美しさが衰え、体型は不格好になり、音声が張りつて失つて行くのが宿命です。又、親客の要求する所も、時代と共に推移します。故に、自分がやつと、思ひ込んで身につけて、エンジン全開、突っ走つて下さい!! (事故るなよ)

それでは、健康に氣をつけて、エンジン全開、突っ走つて下さい!! (事故るなよ)

初心不可忘。について
H.III B担任 木村観次

1月21日と22日。近くのこともあり、大学の門前で、諸君を励ますつもりで見守つていました。談笑しながら来る諸君もありました。しかし少し顔をひきつらせ、ただ真直ぐ、校門の奥、校舎をのみ目指し、視線を動かさず、声をかけても気付けず足速に、目前を通り過ぎていく方も、意外に多い。

高校の3年間、一生懸命勉強された諸君には、余裕が少なく、受験をすべつての優先順位をどうにかに多かつた事。勿論、当然の事。今、当然の目標を終えた諸君は、受験が最後の目標で、自分達の事を御理解されたと思ふ。

いよいよ、動かさなかつた眼線を動かし、ゆつくり自分の周りを視たり、察したりして下さい。親や兄弟、友人や知らない人達まで、自分の左右を改めて見て下さい。次に自分の位置やランドを確かめると、群の中心に居ると感じる人もあるでしょう。中心に居た、一番上に座つてゐる人はまだ子供の名残です。人間という社会の構成単位の間には、互いに影響を及ぼし合う共有電子や電子の存在する事に気がつけば、大人の自分を悟るでしょう。

社会に船出していく諸君には、周りの人の存在に気が付き、周りの人の氣を察する「気配りの心」が大切で

善悪でなされる
H.III F担任 長浜 勝利



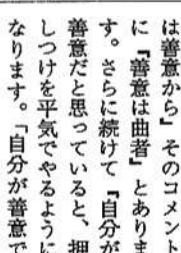
未知の楽しい、広い社会への出港、おめでとうござい。卒業生、32期生のみなへ……

止つて、右、左、
H.III E担任 小川 仁美



H.III D担任 田中 勉

H.III C担任 寺井治夫



32期生の皆さん卒業おめでとうございます。洛星での時間、それぞれあつた思い出を抱いて卒業式の日を迎えてくれたこと、と思います。2月8日の君たち一人一人の表情は、ほんのりとした笑顔で、それは、本当に嬉しかった。長い間、名前を呼ばれた、肉体的に常に変化しています。美しさが衰え、体型は不格好になり、音声が張りつて失つて行くのが宿命です。又、親客の要求する所も、時代と共に推移します。故に、自分がやつと、思ひ込んで身につけて、エンジン全開、突っ走つて下さい!! (事故るなよ)

それでは、健康に氣をつけて、エンジン全開、突っ走つて下さい!! (事故るなよ)

初心不可忘。について
H.III B担任 木村観次



HⅢA 竹沢 京介
洛星に入ったら、いろいろやってやろうと思ってました。たしかに学校行事にはかなり積極的に参加しました。でも部活は1年でやめる、本も思った程読めないう、コンサートにも行けない……。今から思えば、欲張りすぎたと思います。僕は高校から洛星に入學したのですが、6年間あっても僕の「欲張り」は満たされなかったかもしれません。でも、それはそれで良かったのだと思っています。

HⅢB 林 夏生
灰色の毎日を覚悟して高校の門をくぐった僕でした。が、予想に反して自由な校風の中、個性的な友人や愉快な先輩達に出会い、自分なりに充実した3年間を過ごすことができました。見ればは良くなくとも、自分の納得のいく毎日を送る。簡単なようで難しく、何より大切なことだと僕は思います。お世話下さった方々に心から感謝するとともに、皆さんがそれぞれに有意義な学校生活を送られるよう、願ってやみません。

HⅢC 船引 厚志
この6年間で僕はいろんな経験をしましたが、その機会を与えてくれたのが洛星でした。タブローは1年の節目をつける上で、又先輩、後輩と知り合う上でも重要なものでした。クラブや文芸等で活動への場を持てたことも大きな収穫でした。この6年間の洛星生活が自分というものを形作る上で大きな影響を与えたようです。今は人生の節目をまた一つ迎えるようとしていくと実感しています。

HⅢD 中村 宣
今の時期、一番必要なこととだけ自分を見つめられるかである。冷静さを保ち目先の点数にこだわらないことである。水掛け論ではあるが、本書では、その

HⅢE 掛谷 英紀
共通一次には、今年の倫政の試験問題や、私学の参加を執拗に迫る様子から、思想統制的なものを感ずる。来年度の倫政には、政治献金が正しいと解答しない点の真意が問題になるかもしれない。冗談はさておき、それでも点を稼がねと大学に入れない訳だが、二次に対応できる力があればそれなりの点はとれるから、周囲に振り回されずマイペースで勉強すればいいと思う。

HⅢF 田中 延亮
先日、僕は同じ公立中学を卒業して、市内の工場に働いている友達に言われた。「お前はえーのー、大学入って遊んで、ええと就職して、長い間働いてたおれ

HⅢG 一谷 勝之
僕の場合、いわゆる「受験勉強」で、各科目の本質的な理解が少し進んだのではないかと思います。数学科の公式を単に暗記するだけではだめで、ある程度基礎ができたと思ったら、貸金庫まで応用問題に取り組んで下さい。徹夜勉強だけは絶対にやめなさい。

HⅢH 久保 哲
「共通一次なんてやめてしまえ」と言っても、受験生は受けなければならぬ。頑張ってください。

ありがとう洛星

卒業生より

HⅢD 藤原 淳
3年間通って、いろいろな行事があり、編入生ということであまり深く参加することはできなかったけれども、参加してよかったと思うのはいくつもありました。やはり勉強だけが高校生活というのには悲しいものです。「自分は何にも参加しないんだ」と決めこまずに、ふり返って見た時「洛星に来てよかった」と思えるような高校生活を送ってほしいと思います。

HⅢE 川村 和哉
僕は、高校から3年間お世話になり、その間見事に(？)皆勤を成しとげてしまった。にもかかわらず、まだこの学校でやりたいことが山ほど残っている。「洛星」というのは、世間で言われているよりも、ずっとおもしろい所だった。そのためか、かなりさぼってしまっているが、今になって苦しんでいるのが現実なのである。後輩の諸君、悔いのないよう、自分のやりたいことを存分にがんばってください。

HⅢF 稲葉 光彦
洛星に入り、6年は長いやらなあとはいながら何やかんやしてきて、はつと気が付いてみるともう追い出される身になってしまった。この学校では、タブローに出たり、文化祭、体育祭で騒いだり、野球の試合では死球になったりして様々なことがあったけれども、今となってはいい思い出である。みなさんも、いい思い出が作れるように、それぞれの充実した学園生活を送ってください。

HⅢG 白土 秀樹
人間多少欲張りな方が良く、簡単なようで難しく、何より大切なことだと僕は思います。お世話下さった方々に心から感謝するとともに、皆さんがそれぞれに有意義な学校生活を送られるよう、願ってやみません。

HⅢH 山本 典生
この洛星には、個性を持った人が非常に多い。先生方の授業は、その個性がよく反映されたものであった。周りの友達も、皆一風変わったものを持っている。僕は、6年間で、これらの人達から、様々なことを吸収させてもらった。これは、卒業後も僕にとって何にも替えられない財産になると思う。このような素晴らしい財産を僕に与えてくれた洛星に対して、今はただ、感謝の気持ち一杯だ。

HⅢI 安東 英明
共通一次対策ですが、英語の古文漢文は、二次用の勉強しておけば十分です。あとは直前(12月頃)から、つめ込みと慣れだけです。それから定期テストを大切にしましょう。とにかく練習を受けつづけた。田中

HⅢJ 青井 重善
受験勉強は、下地ができているなら高三になってからが勝負だと思ふ。短期間に集中した方が見通しの立ち易い科目もある。でも一科目でいいから、受験を意識せずに早くから力を入れられるものがあると大変良いだろう。そういうものを早くから見つけて下さい。

HⅢK 佐藤 寿彦
高三になってから僕は最前列に自ら志願して座り続け変人あつかいされた。英語の藤田先生の時間は特におびえた。内職は村田前校長先生の時間しかできなかった。物理の補習に行ったら数学は毎土曜日に先生のたつた3人を相手の補習を受けつづけた。田中

HⅢL 山本 典生
は身障者も含め不適な人がいる。洛星を卒業した者として、彼等に常に同情できるように一人一人になりたい。

HⅢM 山本 典生
は身障者も含め不適な人がいる。洛星を卒業した者として、彼等に常に同情できるように一人一人になりたい。

HⅢD 西澤 光生
中高6年間もあっていう間に過ぎ、もう卒業を迎える事になった。この6年間は、僕にとって重要な人生の転換点となったと思う。今の地球全体で将来を模索している時代にあつて、これからは、この中高6年間

HⅢE 山本 典生
が大学以上にますます重要なものとなっていくだろう。この重要な時期にいる後輩の中学生、高校生は、個人の勝手ですが、是非、自分自身を見つめ直して、しっかり勉強して下さい。

HⅢF 稲葉 光彦
洛星に入り、6年は長いやらなあとはいながら何やかんやしてきて、はつと気が付いてみるともう追い出される身になってしまった。この学校では、タブローに出たり、文化祭、体育祭で騒いだり、野球の試合では死球になったりして様々なことがあったけれども、今となってはいい思い出である。みなさんも、いい思い出が作れるように、それぞれの充実した学園生活を送ってください。

HⅢG 白土 秀樹
人間多少欲張りな方が良く、簡単なようで難しく、何より大切なことだと僕は思います。お世話下さった方々に心から感謝するとともに、皆さんがそれぞれに有意義な学校生活を送られるよう、願ってやみません。

HⅢH 山本 典生
この洛星には、個性を持った人が非常に多い。先生方の授業は、その個性がよく反映されたものであった。周りの友達も、皆一風変わったものを持っている。僕は、6年間で、これらの人達から、様々なことを吸収させてもらった。これは、卒業後も僕にとって何にも替えられない財産になると思う。このような素晴らしい財産を僕に与えてくれた洛星に対して、今はただ、感謝の気持ち一杯だ。

HⅢI 安東 英明
共通一次対策ですが、英語の古文漢文は、二次用の勉強しておけば十分です。あとは直前(12月頃)から、つめ込みと慣れだけです。それから定期テストを大切にしましょう。とにかく練習を受けつづけた。田中

HⅢJ 青井 重善
受験勉強は、下地ができているなら高三になってからが勝負だと思ふ。短期間に集中した方が見通しの立ち易い科目もある。でも一科目でいいから、受験を意識せずに早くから力を入れられるものがあると大変良いだろう。そういうものを早くから見つけて下さい。

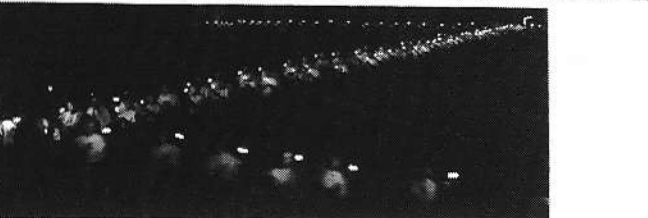
HⅢK 佐藤 寿彦
高三になってから僕は最前列に自ら志願して座り続け変人あつかいされた。英語の藤田先生の時間は特におびえた。内職は村田前校長先生の時間しかできなかった。物理の補習に行ったら数学は毎土曜日に先生のたつた3人を相手の補習を受けつづけた。田中

HⅢL 山本 典生
は身障者も含め不適な人がいる。洛星を卒業した者として、彼等に常に同情できるように一人一人になりたい。

HⅢM 山本 典生
は身障者も含め不適な人がいる。洛星を卒業した者として、彼等に常に同情できるように一人一人になりたい。



クリスマスタブロー



プロローグを終えて、何ともいえない充実感・満足感を味わえました。これこそがタブローの魅力です。皆さんにも積極的な参加を勧めます。

総務 H I E 高野裕幸
私は、総務パートの一員としてタブローに参加してきました。総務パートは、いわば裏方の裏方といった仕事が多く、あまり目立たないが、自分たちがタブローを支えているのだという意識は、どのパートにも増して強く持っています。私は、タブローの縁の下で力持った存在に徹することができたことを誇りに思っています。

照明 H I B 橋川雅史
今年も無事ノミスで終えられました。これはひとえにパートの集中力と結束力によるものだと思います。タブロー全体を見ても、毎年成功しているのは四百の個人が行う仕事を各パートが一致協力してまとめ上げるからで、この四人の調和こそタブローのすばらしさであり、折り返しと呼べるゆえんではないでしょうか。

衣装 H I F 上町 透
タブロー本番の空気は、恐ろしい程張りつめています。皆が細心の注意を払い、ほんの小さなミスも犯さぬよう最大限努力をする。そして本番が無事終わる。この緊張が解けた時、わずかに一週間であったが、今までの苦勞が思い出されて感動が込みあげてくる。泣けてくるのだ。皆、この感動を求めてタブローをしている。

聖歌隊 H I E 平瀬清也
その壮麗さと厳肅さで有名な洛星のタブローの全貌を一度に見渡せること、神の子キリストの誕生を歌によって心からお祝いできること、これが聖歌隊の魅力です。今年は失敗も少しありましたが、後輩の皆さんにもこの魅力を是非味わってほしいです。最後に応援して下さった高三やOBの方々に感謝します。

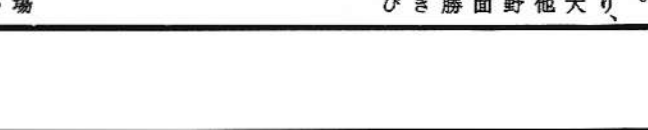
効果 H I B 浜田哲也
効果に限って言えば、人数も少ないし、仕事をしている所が大講堂の一番後方にあるので、タブロー全体を客観的に見物することができません。中間試験が終わった直後はバラバラだった個人、各パートが日を重なる毎に一つになって行くのを感じることがあります。タブローの魅力はこの際生み出される一体感だと思います。

（創部）
学校創立時にはクラブというものが存在せず、野球の好きな生徒達が集まり好きなようにチーム名をつけて、草野球リーグ戦を行ない楽しんでいました。1年経って、やっぱりクラブを作りたいという希望が2期生の間からもちあがり、学校にお願いをして、許可を得ました。当時は、ユニホーム、スパイクはぜいたく品という事で購入する事は認められず、紺色の体操服と白のトレパン姿で、岡崎球場で行なわれた開会式の行進を行ないました。結果は、という1回戦大原中学に、2回戦に強豪平安中学に歯がたたず敗れてしまいました。その後、専門の指導者もなく、長い低迷期に入りました。

（復活）
昭和40年、現在、高校野球部の監督の西野文雄先生が京都学芸大学から着任され、中学野球部の強化にあたられました。当時、野球部はあるにはあるけれど、試合に出れば負け、中二ローラー掛け、そしてランニング、朝早くから昼休み、放課後と主にこのくりかえしでした。でも洛星の野球部は「ただ技術のみを覚えるのではなく、教室で学べない事をグラウンドで学ぶのだ」「やりかけた事は途中で投げ出さず、最後までやり抜く」「野球の勉強を勉強に生かし、勉強の厳しさを野球に生かせ」等、本当に厳しい指導に皆が必死になつて食いついてきました。14期生が中学三年生になる頃からチーム力も上り、中学野球部創部以来はじめて

中三合戦でも部員数六、七名くらいで、他の部員に助け人を頼み込んで、ようやく大会に出場するというようなクラブでした。試合に行くとき相手校からは「坊ちゃん学校」とか「野球なんかやめて、早く家に帰れ、勉強でもしてろ」などと汚い罵り言葉を浴びたもの、本当に悔しい思いをしたものでした。その頃、大講堂が工事中で、グラウンドの西側一帯に仮設の塀があり、野球部のグラウンドも移動したところ、水はけが悪く、マウンドもない、大きな石がゴロゴロしている。そんな状態から中学野球部は再スタートしました。毎日の練習と云えば、自分達を鍛える場は自分達の力で、という事で、石ころ、砂運び、水とり、トンボ引き、

を一つの目標にはします。しかし、それは結果であり、むしろそこへ行く過程を大切にしたいと思っています。他校の生徒のように、少年野球をつづけ、技術、体力面とも優れた相手と対等に勝負をするために私達のできる事は、中学生らしくきび



洛星名物となった感あるクリスマス・タブローが本年も12月24日のクリスマススイプに行われた。今年で23回目をかぞえ、生徒、卒業生、父兄約千三百人が新講堂を埋め、2時間に及ぶキリスト誕生を祝う折りりと音楽劇に参加した。洛星ときけばタブローが頭に浮ぶという程、年末のこの行事を楽しみに待つ人もいる。このような魅力を作り出す仕掛けに感想を求めてみた。

舞台 H I E 平野 良
各パートが細部にまで気を配るのに対し、舞台監督はより大きな視点からそれらをまとめ上げねばなりません。今回チームを務め、全体の流れと共に人間関係にまでも気を配りつつ、タブローを終えて、何ともいえない充実感・満足感を味わえました。これこそがタブローの魅力です。皆さんにも積極的な参加を勧めます。

照明 H I B 橋川雅史
今年も無事ノミスで終えられました。これはひとえにパートの集中力と結束力によるものだと思います。タブロー全体を見ても、毎年成功しているのは四百の個人が行う仕事を各パートが一致協力してまとめ上げるからで、この四人の調和こそタブローのすばらしさであり、折り返しと呼べるゆえんではないでしょうか。

衣装 H I F 上町 透
タブロー本番の空気は、恐ろしい程張りつめています。皆が細心の注意を払い、ほんの小さなミスも犯さぬよう最大限努力をする。そして本番が無事終わる。この緊張が解けた時、わずかに一週間であったが、今までの苦勞が思い出されて感動が込みあげてくる。泣けてくるのだ。皆、この感動を求めてタブローをしている。

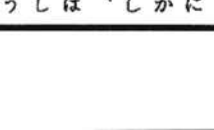
聖歌隊 H I E 平瀬清也
その壮麗さと厳肅さで有名な洛星のタブローの全貌を一度に見渡せること、神の子キリストの誕生を歌によって心からお祝いできること、これが聖歌隊の魅力です。今年は失敗も少しありましたが、後輩の皆さんにもこの魅力を是非味わってほしいです。最後に応援して下さった高三やOBの方々に感謝します。

（創部）
学校創立時にはクラブというものが存在せず、野球の好きな生徒達が集まり好きなようにチーム名をつけて、草野球リーグ戦を行ない楽しんでいました。1年経って、やっぱりクラブを作りたいという希望が2期生の間からもちあがり、学校にお願いをして、許可を得ました。当時は、ユニホーム、スパイクはぜいたく品という事で購入する事は認められず、紺色の体操服と白のトレパン姿で、岡崎球場で行なわれた開会式の行進を行ないました。結果は、という1回戦大原中学に、2回戦に強豪平安中学に歯がたたず敗れてしまいました。その後、専門の指導者もなく、長い低迷期に入りました。

（復活）
昭和40年、現在、高校野球部の監督の西野文雄先生が京都学芸大学から着任され、中学野球部の強化にあたられました。当時、野球部はあるにはあるけれど、試合に出れば負け、中二ローラー掛け、そしてランニング、朝早くから昼休み、放課後と主にこのくりかえしでした。でも洛星の野球部は「ただ技術のみを覚えるのではなく、教室で学べない事をグラウンドで学ぶのだ」「やりかけた事は途中で投げ出さず、最後までやり抜く」「野球の勉強を勉強に生かし、勉強の厳しさを野球に生かせ」等、本当に厳しい指導に皆が必死になつて食いついてきました。14期生が中学三年生になる頃からチーム力も上り、中学野球部創部以来はじめて

中三合戦でも部員数六、七名くらいで、他の部員に助け人を頼み込んで、ようやく大会に出場するというようなクラブでした。試合に行くとき相手校からは「坊ちゃん学校」とか「野球なんかやめて、早く家に帰れ、勉強でもしてろ」などと汚い罵り言葉を浴びたもの、本当に悔しい思いをしたものでした。その頃、大講堂が工事中で、グラウンドの西側一帯に仮設の塀があり、野球部のグラウンドも移動したところ、水はけが悪く、マウンドもない、大きな石がゴロゴロしている。そんな状態から中学野球部は再スタートしました。毎日の練習と云えば、自分達を鍛える場は自分達の力で、という事で、石ころ、砂運び、水とり、トンボ引き、

を一つの目標にはします。しかし、それは結果であり、むしろそこへ行く過程を大切にしたいと思っています。他校の生徒のように、少年野球をつづけ、技術、体力面とも優れた相手と対等に勝負をするために私達のできる事は、中学生らしくきび



局説

「編集者の父から息子への別れの手紙」
これから書く事は、自分自身への反省でもあるので何をえらそうに、とか、おまえはどうかだったんだ、などとは言わないでほしい。

僕が言うのもなんだが、洛星新聞は、どうもつまらない。読んでいても、活気というか、力が感じられないのである。つくっていき空しくなるのだが、理由がやと分かった。言いたい事、つまり主張する事が入っていないのである。考えてみればもっともな事で、局員は、新聞ごっこをした

い、なんて夢にも思わないのである。好意的に解釈すれば、何か言いたい、とは思って、現状の官報を維持

から声が上がっていた事などを考え合わせると、単なる生徒の気まぐれとは思えず、やはり、何か思うところがあったのじゃないか、と考えられる。

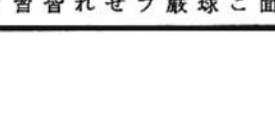
考えてみれば学校の意向は即座に生徒に伝わるが、生徒の感情を学校に伝える手段は、そう見あたらない。そんな状況の中で学校が健全に運営されていくのは難しいであらう。

そんな中で、洛星新聞は貴重な存在になれる可能性を持っている。別に難しく考える事はない。ちよっと立ち止まって考えてみて、思った事をそのまま、そしてそれだけを言えたいのである。

式が終わって一旦教室に入った後、例の如く馬代通りにずらりと並んだ観光バスに乗り込み、1時前に都ホテルに到着。

これが会場、瑞穂の間。豪華。学校から行く一歩は、い、と決めていたののでショックを受けた。

突然と光り輝く食器。



今考えてみると、練習のうちには義務感でやっているようなところがありました。が、本番ではそれが衝動に変わり、普段得にくい感動を得られました。

僕らのいた演出パートは、実務の能力がなくても、やる気と務めるところでした。自分の考えを生かすことが、このパートのいい点だったと思います。

装置 H I F 山口真二
タブロー本番の空気は、恐ろしい程張りつめています。皆が細心の注意を払い、ほんの小さなミスも犯さぬよう最大限努力をする。そして本番が無事終わる。この緊張が解けた時、わずかに一週間であったが、今までの苦勞が思い出されて感動が込みあげてくる。泣けてくるのだ。皆、この感動を求めてタブローをしている。

聖歌隊 H I E 平瀬清也
その壮麗さと厳肅さで有名な洛星のタブローの全貌を一度に見渡せること、神の子キリストの誕生を歌によって心からお祝いできること、これが聖歌隊の魅力です。今年は失敗も少しありましたが、後輩の皆さんにもこの魅力を是非味わってほしいです。最後に応援して下さった高三やOBの方々に感謝します。

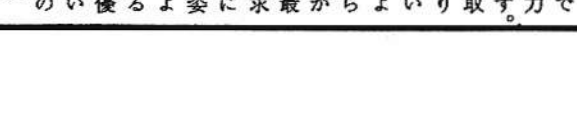
効果 H I B 浜田哲也
効果に限って言えば、人数も少ないし、仕事をしている所が大講堂の一番後方にあるので、タブロー全体を客観的に見物することができません。中間試験が終わった直後はバラバラだった個人、各パートが日を重なる毎に一つになって行くのを感じることがあります。タブローの魅力はこの際生み出される一体感だと思います。

（創部）
学校創立時にはクラブというものが存在せず、野球の好きな生徒達が集まり好きなようにチーム名をつけて、草野球リーグ戦を行ない楽しんでいました。1年経って、やっぱりクラブを作りたいという希望が2期生の間からもちあがり、学校にお願いをして、許可を得ました。当時は、ユニホーム、スパイクはぜいたく品という事で購入する事は認められず、紺色の体操服と白のトレパン姿で、岡崎球場で行なわれた開会式の行進を行ないました。結果は、という1回戦大原中学に、2回戦に強豪平安中学に歯がたたず敗れてしまいました。その後、専門の指導者もなく、長い低迷期に入りました。

（復活）
昭和40年、現在、高校野球部の監督の西野文雄先生が京都学芸大学から着任され、中学野球部の強化にあたられました。当時、野球部はあるにはあるけれど、試合に出れば負け、中二ローラー掛け、そしてランニング、朝早くから昼休み、放課後と主にこのくりかえしでした。でも洛星の野球部は「ただ技術のみを覚えるのではなく、教室で学べない事をグラウンドで学ぶのだ」「やりかけた事は途中で投げ出さず、最後までやり抜く」「野球の勉強を勉強に生かし、勉強の厳しさを野球に生かせ」等、本当に厳しい指導に皆が必死になつて食いついてきました。14期生が中学三年生になる頃からチーム力も上り、中学野球部創部以来はじめて

中三合戦でも部員数六、七名くらいで、他の部員に助け人を頼み込んで、ようやく大会に出場するというようなクラブでした。試合に行くとき相手校からは「坊ちゃん学校」とか「野球なんかやめて、早く家に帰れ、勉強でもしてろ」などと汚い罵り言葉を浴びたもの、本当に悔しい思いをしたものでした。その頃、大講堂が工事中で、グラウンドの西側一帯に仮設の塀があり、野球部のグラウンドも移動したところ、水はけが悪く、マウンドもない、大きな石がゴロゴロしている。そんな状態から中学野球部は再スタートしました。毎日の練習と云えば、自分達を鍛える場は自分達の力で、という事で、石ころ、砂運び、水とり、トンボ引き、

を一つの目標にはします。しかし、それは結果であり、むしろそこへ行く過程を大切にしたいと思っています。他校の生徒のように、少年野球をつづけ、技術、体力面とも優れた相手と対等に勝負をするために私達のできる事は、中学生らしくきび



第一回「摂理」 前校長 村田 源次

なつた先生方

☆前田耕造先生
前田先生は本校24期前田
行治さんのお父様で長年学
校の水道水質管理、プール
水質管理等といった生徒が
不断気のつきにくい縁の下
の力持ちのお仕事をして頂
いていた。

☆尾上せい先生
会計、事務の仕事をして
下さっていた尾上先生がこ
の3月で停年退職される。
先生は洛星に25年間お勤め
になり洛星の生き字引のよ
うな存在であった。

とくください。何年かたつて
社会の一線で御活躍されて
いる皆さんの御様子を嬉し
く聞かせていただけるよう
に元気で暮らしていたと思
います。御健闘を祈ります。
最後に皆さんに有難うと
お礼を申しあげてお別れい
たします。御気嫌よう。

編集後記

とうとう洛星を卒業する時が来ました。幸か不幸か洛星に入學し、6年間が過ぎてしまいました。洛星に入ったが為に得た物失った物はたくさんあるでしょう。それらを大切にして今度は外側から洛星を見たいと思います。(好きです洛星)